

2018 年 6 月 7 日（木） 山口情報芸術センター（YCAM）視察まとめ

全面ガラス貼りで屋上が波状に湾曲した一風変わった外観の山口情報芸術センター（YCAM）の一角に、山口市立中央図書館はある。YCAM の延床面積 14,807.54 m²のうち、3927.61 m²が図書館の敷地となっている。（約 26%）

YCAM は文化・芸術の交流拠点を作ることを目的として、1992 年に基本計画がたてられた。高校生や市民へのアンケートや懇談会を経て 2003 年に開館した。山口市には県立山口図書館があるため、市立図書館は設置されていなかった。それが、どの段階か詳細は不明だが、ぎりぎりです市立図書館を新たに作り、YCAM 内に入れることが決まったそうだ。

建物は全面ガラス貼りとなっているが、写真の左側の窓のように、内部が完全に透けて見えないように縦線の模様がほどこされている部分もある。YCAM の正面は公園となっていて、広大な芝生が敷いてある。そこでお弁当を広げている家族もいたが、図書館内から外の視線はあまり気にならないように配慮されていた。けれど、完全に見えないわけではないので、図書館内の様子を窺うこともできる。開放的で気軽に入館したくなる外観だと感じた。

ただ、デメリットとして、西日が直接差し込むことで熱がこもってしまうそうだ。

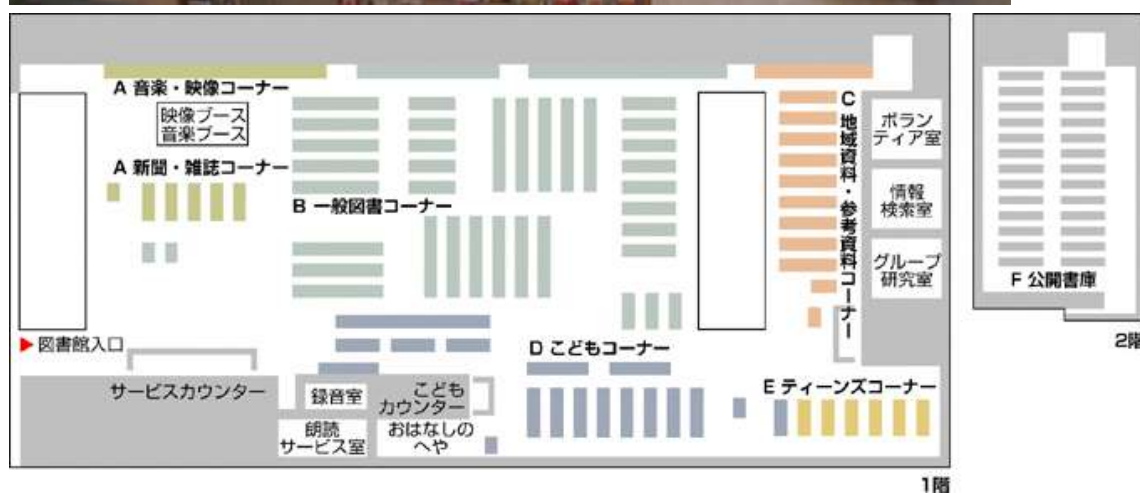


駐車場は 157 台に加え、身障者用スペースが 4 台ある。ただ、YCAM との共有のため、イベント等がある際は近隣の駐車場を借りても間に合わないとのこと。

施設の運営は指定管理者である（公財）山口市文化振興財団が担っているが、図書館については山口市の教育委員会の所管となっている。職員は正規職員が 12 名（司書資格を持っているのは 7 名）、嘱託・臨時職員を含めると延べ 49 名もの職員が働いている。（勤務日数が月に数日という職員もいる）来館者数は平日は千人、休日は二千人。

入ってすぐ驚くのは奥行きの広さである。入口から奥のガラスの壁まで書架がずらりと並んでいるが、圧迫感をあまり感じないのは天井が高く設計されているためだと思う。また書架は手前の高さを低めに設定し、奥は高くするという工夫をしているようだ。ひとつひとつの書架の上段にライトが設置されているため、窓から遠い書架でも暗さを気にすることは少ないと思われる。シンプルな書架の並びは動線を取りやすくするためだという。

カウンターは入口近くにひとつ、児童コーナーにひとつ、地域資料コーナーにひとつも三つある。私たちが視察に訪れた日は平日だったためか、児童コーナーのカウンターは使われていなかった。最奥の書架はカウンターに立つ司書から完全に死角になってしまう点が気になったが、特に問題は起きていないようだ。



(山口市立図書館 HP より)

ブラウジングコーナーや自習室等は作られてはいないが、壁や窓に面してカウンターが設置してある。また、CD・DVD を視聴できるコーナーが区切られている。席数は合わせて 325 席。

配架の工夫としては、入口近くに『暮らしのコーナー』として、家事や旅行、手芸など市民の興味の高いものを NDC 関係なく並べている。また、913 の文芸も人気が高いため、手前に配架して気軽に手に取れるようにしているそう。利用の多いものは手前に出すというスタンスは市民にとっては便利のいいものだと思う。しかし、それではブラウジングの機会が減ってしまうのではとも感じたので一長一短である。

地域資料・参考資料コーナーは一般書架とはガラスの壁で仕切られている。ここは窓に面していないので、他と比べると薄暗く足を入れづらく感じた。昨年視察に訪れた日南町図書館は、利用者の目に触れてほしいからの理由で、最初は最奥に設置するはずだった郷土資料コーナーを入口近くに置くことにしたと言っていた。郷土資料は貴重なものであるが、だからこそ気軽に市民に利用してほしいと思う。市民交流センターで郷土資料の場所をどこに置くかは慎重に判断したい。

新しく図書館を設置する際は、備品のピックアップを慎重にしたほうがよいとのアドバイスをいただいた。山口市立図書館を視察していて便利そうだと感じたのは、書架のへりに置いてある 3 段ほどの小さな返却台だ。返却された本をまとめて書架に返すのではなく、一端この場所に置いておくようだった。書架の数が多い場合、このような場所があると書架整理がしやすくなるように思う。今後図書館を視察する際には、構造や配架だけでなく備品にも注意する。